学生が地域との連携を目指す町家プロジェクト

長浜バイオ大学開学10周年記念シンポジウム

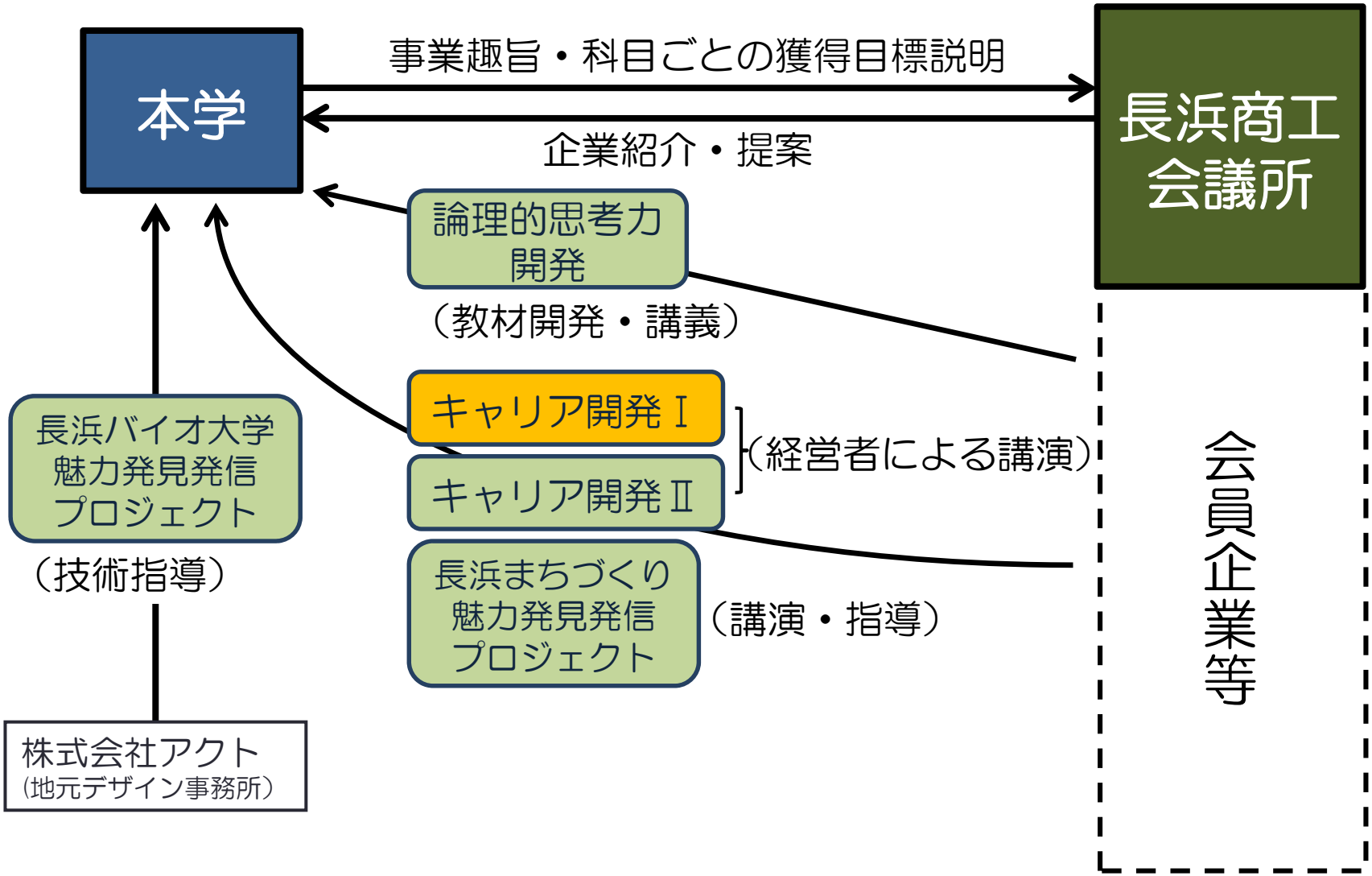
2013年10月19日

松島　三兒

キャリア教育プログラムの立上げ

	1回生前期	1回生後期	2回生前期	2回生後期	3回生前期	3回生後期
2007年度入学生以前					キャリア講座（課外） インターンシップ実習（非要卒選択）	
2008年度入学生		自己探求講座（課外）		キャリア基礎（課外）	キャリア講座（課外） インターンシップ実習（非要卒選択）	就活支援講座（課外）
2009年度入学生	ライフデザイン（非要卒選択） 自己探求講座（課外）		キャリア開発Ⅰ（非要卒選択）	**長浜まちづくり魅力発見発信PJ**（課外）	キャリア開発Ⅱ（課外） インターンシップ実習（非要卒選択）	就活支援講座（課外）
2010年度入学生	ライフデザイン（非要卒選択） 自己探求講座（課外）	長浜バイオ大学魅力発見発信PJ（課外）	キャリア開発Ⅰ（非要卒選択）	**長浜まちづくり魅力発見発信PJ**（課外）	キャリア開発Ⅱ（課外） インターンシップ実習（非要卒選択）	就活支援講座（課外）
2011年度入学生	ライフデザイン（必修） 自己探求講座（課外）	長浜バイオ大学魅力発見発信PJ（選択）	キャリア開発Ⅰ（必修） 論理的思考力開発（選択）	**長浜まちづくり魅力発見発信PJ**（選択）	キャリア開発Ⅱ（選択） インターンシップ実習（非要卒選択）	就活支援講座（課外）

長浜商工会議所と包括的に連携



地域と連携した取組が文部科学省GPに選定される

- 「地元経済界との連携による実践的就業力育成」
  ⇒　平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」採択

- 「PBLの確立を契機とした学生の主体的な学びの確立」
  ⇒　平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択

GP=Good Practice：大学等が実施する教育改革の取組の中から、優れた取組を選び、支援するとともに、その取組について広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼んでいます。

なぜ商工会議所と連携したか？

- 長浜は民間の活力が非常に高い。
  - 商工業の経営者が、本業の経済活動はもちろん、まちづくりなどの地域活動にも積極的に取組んでいる。
- 将来の産業を担う人材の育成・指導に地元経済界として幅広くかかわってもらいたい。
- 名実ともに地域に開かれた大学としていきたい。
  - 本学を熱い想いで誘致していただいた住民・経済界・行政の思いに応えたい。

地域に開かれた大学となるために

- 教員が主体となる関わり
  - 産学官連携の推進
  - 地域環境保全への取組の推進

- 学生が主体となる関わり
  - サークルや学祭実行委員会による地域との連携の推進
  - ところが、もう一方の事実として、多くの学生は長浜の中心市街地に行くことがほとんどない。
    - 本学は長浜駅からひとつ南の田村駅に位置している。学生の多くは滋賀県南部や京都府、岐阜県等から通っているため、長浜の中心市街地を訪れる機会は少なく、市民との交流もほとんどない

2010年度
長浜まちづくり魅力発見発信プロジェクト

課題候補は3つ

2 まちづくり㈱が入居する建物の開発

一軒まるまる何に利用するか？建物の外側はそのままに。中は柱を残せばあとは変えて良い。

1 大手門通りの空き地の開発

トータルの収支が合えば、個々の物件の損得を考える必要はない。人の気持ちにピタッとはまるものが求められる。

商店街の集会所が入る建物が望まれている。街の雰囲気も考えて、どんな商業施設とするか？

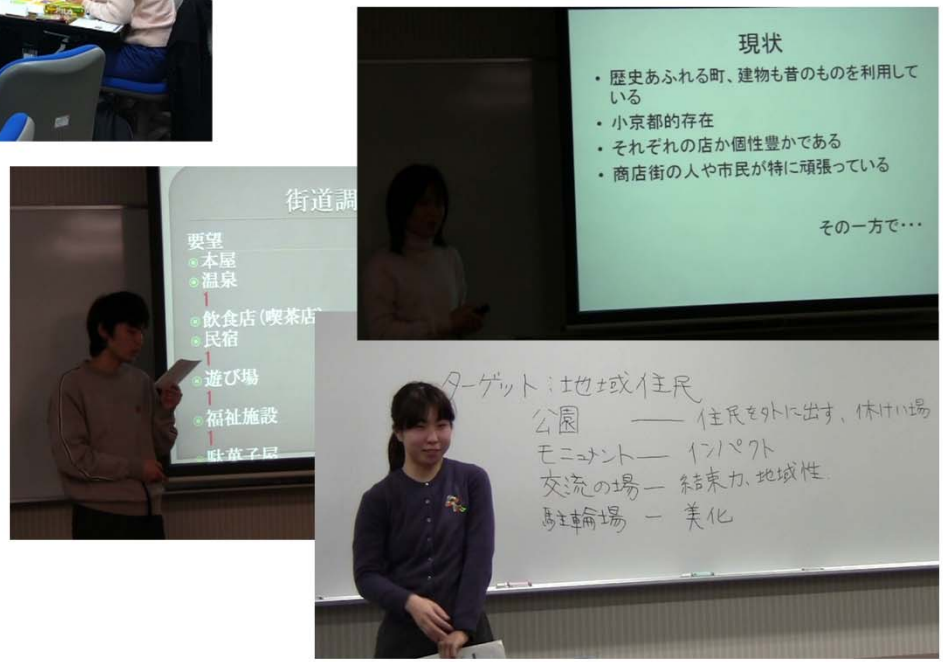
3 平和堂跡地の再開発

また行きたい、住みたいと思ってもらうために跡地をどう利用する？建物を作る必要はない。

グループ作業中の参加者

最初はどんなふうになるかと思ったが、中間発表で印象が変わった。期待が持てる。先日もみなさんが街でインタビューしているのを見たが、こういうことの積み重ねがきちんとした中間発表につながったと思う。（長浜まちづくり株式会社担当者のコメント）

まちづくり課題の現場を観察する参加者



中間発表

2011年度
長浜まちづくり魅力発見発信プロジェクト

長浜バイオ大学プレゼンツ

香りが送る東北へのメッセージ

～石けん作りこうざ～

誰でも簡単にできる香り付き石けんを俺たちといっしょにつくろうぜ！
君も今から石けん絶対ツクルンジャーの一員だ！

日　付：2012年1月21日
時　間：①11：00 ～12：00
②13：00 ～14：00
③15：00 ～16：00
「当日さんかもOK！」

定　員：各20名
参加費：むりょう（※にゅうじょうりょうは100円）
場　所：ﾊﾞｳﾋﾞﾙ2階
（曳山博物館の向かい）

●よやくの申しこみ または といあわせさき
machizukuri.chamber@gmail.com
0749－64－8100（長浜バイオ大学）
電話の時は「石けん作りこうざ」と言ってね。

●伝えてもらいたいこと
・さんかする人の全員のおなまえと年れい
・ほごしゃの人すう（いらっしゃれば）
・さんかしたい時間
（①～③よりえらんで下さい）
※当日は、よごれても良い服またはエプロンでさんかして下さい。
※小学生以上が参加できます
※小学三年生までは保護者同伴でお願いします

長浜バイオ大学は東北元気市場に協力しています
主　催：長浜まちづくり魅力発見発信プロジェクト
代表　牧野佑亮（machizukuri.chamber@gmail.com）

新聞　2012年（平成24年）1月22日（日曜日）

東北の花・果実で せっけん作り

復興願い香り付け

児童にバイオ大生が講座

長浜

長浜市の長浜バイオ大の学生が二十一日、同市元浜町のパウピルで開かれている物産展「東北元気市場」を会場に、東北にちなんだ花や果物の香りを付けたせっけん作り講座を催し、参加した子どもたちと東日本大震災の被災地に思いをはせた。（矢田真裕）

子どもたちに東北のことを知ってもらおうと、課外授業「長浜まちづくり魅力発見発信プロジェクト」に参加する二年生七人が企画。地元の博物館通り商店街と協力して昨年十一月から準備した。

まず昨年九月末に宮城県気仙沼市や南三陸町をボランティアで訪れたメンバーが、ハマナスや、福島名産の花ハマナスや、福島名産の果物、リンゴやサクランボなど五種類を用意。子どもたちは大学生の助言に従いながら、粉せっけんにお湯やハチミツを混ぜて、こねた。最後に香料を入れて、ハートやキリンなど思い思いの形にして完成させた。

葉の形にハマナスの香りを付けたせっけんを作った長浜北小五年本田桜実さん（一二）は「参加して、東北のことが前より分かった。早く復興してほしいと思った」と話した。

学生は懐かしい香りで元気を出してもらおうと、同会場で二十九日に講演する岩手県のしょうゆ醸造業八木沢商店、河野通洋社長に香り付きせっけん二十個を持ち帰ってもらう産物もしている。

真剣な表情でせっけんをこねる子どもたち＝長浜市元浜町のパウピルで

（日曜・祭日休刊）新聞定価月ぎめ800円　平成24年　1月21日　土曜日

近江毎夕新聞

手づくり石けんの使い方を熱心に聞く参加児童

石けん手づくり指導

バイオ大学生が子ども達に

震災被災地の東北地方の香りを付けた石けんを手づくりして被災地への思いを共有しよう―長浜バイオ大学の二年生七人が生産する「石けんづくり講座」が二十一日、長浜市元浜町の「東北元気市場」で開かれ、午前中に二十五人の子どもたちが混ぜて溶かした石けん素材で、造形や香り、色付けを楽しんだ。午後も二回開かれ、数十人の子どもたちがペンギンや果物型の個性的な石けんを作った。

この日は学生らが粉末にしたベビー石けんを子どもたちに配り、寄贈地の二つ南相馬市の花ハマナスや、福島名産の果物、サクランボなどの香りを発散するオイルや着色料を知ってもらおうと、課外授業「長浜まちづくり魅力発信プロジェクト」に参加する二年生七人が企画した。指導はバイオ大の就職・キャリア部長を務める松倉三兒（さんじ）教授。市内元浜町の博物館通り商店街振興組合理事長も務める山口一優さんら商店街の人たちと連携して市民向けの講座を企画した。

まず、石けんを作るにあたり、ベビーオイルの原料となる石けんを溶かす作業を学生が担当した。

ラップを外して、運用上、ラップにくるんで三日間、乾かす必要があるとの説明を受けた子どもたちは、自作の石けんに見入っていた。

バイオ大学のキャリア教育は今年で二年目。一年生四十人が「バイオ大学の魅力発見発信プロジェクト」に参加し、同校の動画とMVを作り、二回生七人が今回の講座を企画した。

来月十七日に曳山博物館で承スタジオで活動報告会を開く。

長浜バイオ大学のキャリア教育の一つとして二年生七人が参加する「まちづくり魅力発見発信プロジェクト」。粘土状にし、造形を楽しんだ。学生は子どもたちに「一優さん」と語りかけるように指導。ラップにくるんで三日間、乾かす必要があるとの説明を受けた子どもたちは、自作の石けんに見入っていた。

近江牛
明治元年創業
本田フーズ
TEL 62―0719
長浜市神前町5―21

まちなか活動の継続が課題

- 「長浜まちづくり魅力発見発信プロジェクト」の運営には、まちづくり会社や商店街など多くの人が熱意をもってかかわっており、本学学生が街なかで活動することへの期待の大きさがうかがえる。
- しかし、この授業は後期のみであり、授業が終わればまた、学生の足は中心市街地から遠のいてしまう。結果として、長浜の人々を授業の運営のためだけに利用したような形になり好ましいことではない。
- 授業がない期間でも学生たちが恒常的に中心市街地に出かけていき、市民と交流する仕組みが必要ではないか。

町家プロジェクトのスタート

- 2012年4月、長浜まちづくり㈱の事務所だった町家を借り受け、学生が継続的に使用できる拠点とした。
- 20名程度の学生が、週1回町屋に集まり、市民と意見交換しつつ、活動の方向性を模索してきた。

様々なイベントへの参加

2012年7月　ゆかたまつり

2012年6月
まちなか本陣夏の陣

2012年7
わーくワーク北小タウン
（学生たちの活動の活発化を受けて、外から話をいただくようになった）

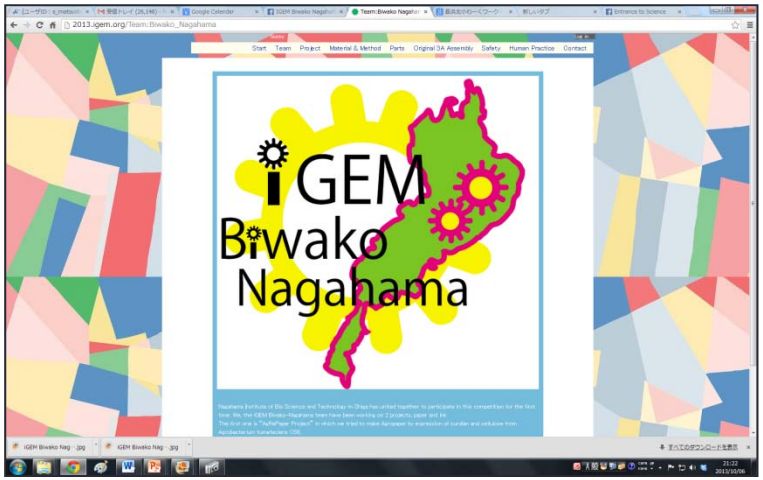
2012年7～12月
ふくらの森整備事業

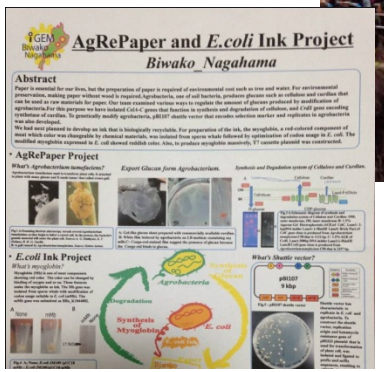
2012年度
長浜まちづくり魅力発見発信プロジェクト

自主活動の立上げ

iGEM Biwako Nagahamaは、合成生生物学の世界大大会”iGEM”へと挑戦するために、2012年年10月月20日日にスタートしたプロジェクト

2013年10月
香港でのアジア大会に出場、銅賞を受賞





http://2013.igem.org/Team:Biwako_Nagahama

Entrance to Scienceは、中学生以上の地域の方対象に授業形式で身近な科学の楽しさを伝えて、地域交流を深めよう！という目的をもって2012年11月に活動を開始したグループ

町家を使って、ほぼ隔月ペースで講座を開催

https://www.facebook.com/entrance.science?fref=ts

今年度も様々な活動を展開

2013年4月
曳山祭り
（写真は7月
のご苦労さん
会）

2013年6月　町家BBQ

2013年7月　ゆかたまつり

2013年7月
わーくワーク
北小タウン

長浜商工会議所会報＜市民版＞

ながはまnews Vol.3

発刊日　平成 25 年 8 月 24 日

地元密着の大学を目指して

今年で創立 10 周年を迎える長浜バイオ大学。

日本で唯一のバイオ系単科大学として、また湖北初の 4 年制大学として長浜の教育の中核を担っているが、長浜バイオ大学の学生が自主的に、また授業の一環として長浜のまちづくりに参画していることはあまり知られていない。長浜出身以外の学生が多い中で、なぜまちづくりに携わるようになったのだろうか。

「まちなかで活動を行うことで、本校のことをもっと知ってもらいたい。そして地域に向けてひらかれた大学を目指したい。地元の人たちと一緒に学生を育てていきたいんです。」キャリア教育（社会の中で自分の役割を果たす力を培うこと目的としたカリキュラム）を指導する松島三兒教授はこう語る。秀吉の城下町として栄えた長浜には歴史的・文化的遺産が多数残っているが、大学生が遊ぶには物足りないのか、ほとんどの学生が授業が終わると市街地に出ることなく帰ってしまうという。

そこで学生がまちなかに出るきっかけとして考えられたのが、市街地に空き家を借りて学生が自由に使えるようにした町家キャンパスだ。キャリア教育の一環として行っている「長浜魅力づくりプロジェクト」では、長浜のまちをより魅力的にするための新しい提案や取り組みを行っており、地元の人たちとのかかわりは欠かせない。まちなかに活動拠点ができれば、ボランティアやイベントへの参加もしやすくなり、なにより学生が商店街の人々と顔なじみになれる。「これまでは『学生さん』と呼ばれていたが、今では個々人の名前で呼んでもらえる学生も増えてきた。」と松島教授は言う。

▲町家キャンパス（元浜町 7 番 5 号）

若者が少なくなってきている商店街においても、学生のような若い力と発想力は重要だ。昨年は地産地消をテーマに長浜の地野菜である赤カブを使ったメニューを開発し、「カブかぶランチ」として黒壁洋屋で販売。長浜在住でないからこそ出てくる斬新なアイディアで好評を博した。彼らの取り組みには商店街からの期待も厚い。「今は誰でもできるまちづくりだが、これからはバイオ大生らしいまちづくりをしたい。」と松島教授も学生たちに期待を寄せている。

▲カブかぶランチ

地元密着の大学を目指してきた長浜バイオ大学。現在でもビワマスの飼料開発やカスミサンショウウオの保護を研究テーマとしており、今後は産官学による新しいビジネスモデルにも挑戦したいと考えているとのこと。「バイオ」と一言で言っても食品、薬品、環境などその裾野は広い。研究成果が認められればそこから雇用創出が望め、その結果地域産業、ひいては日本の産業全体への貢献が期待できる。本学で学んだ学生たちがこれからの長浜を支える人材となるよう、長浜バイオ大学と共に次の 10 年に向けて地域全体で応援したい。

今後の課題

- 自主活動を立ち上げたメンバーから新メンバーへの世代交代

  ⇒　学年を問わず、より多くの学生が参加しやすい環境をどう作るか

- 新たな活動の展開

- まちの人たちとの交流の強化

  ⇒　町家にまちの人たちに来てもらいやすい環境をどう作るか

ご清聴ありがとうございました。